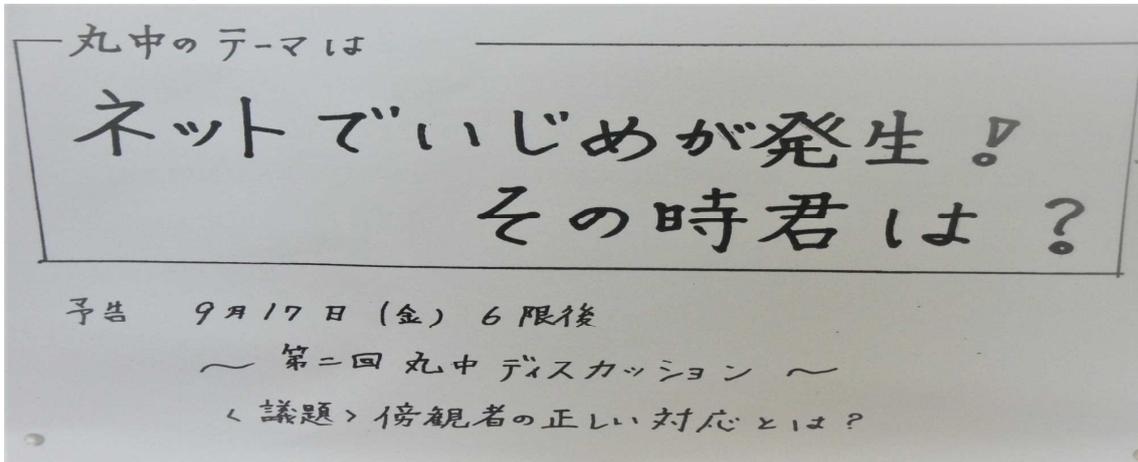


恕の心



令和3年9月21日 校長 廣瀬 真樹

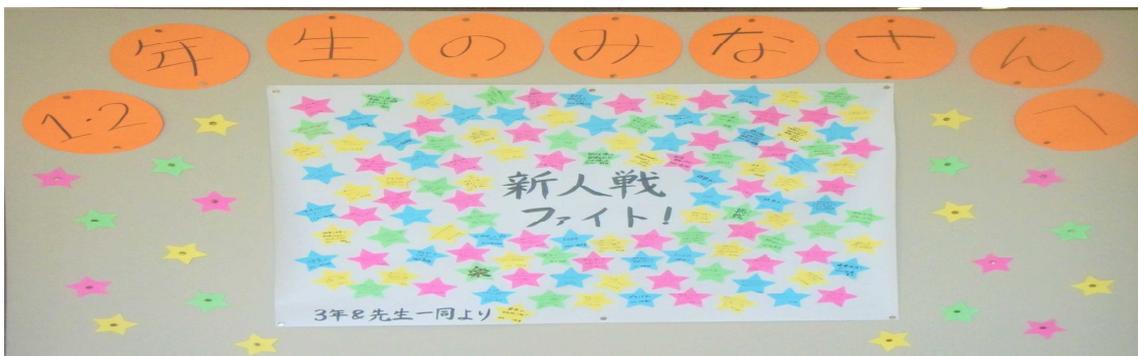
第2回丸中ディスカッション行われる



先週、第2回丸中ディスカッションが行われました。テーマは「ネットでいじめが発生! その時君は?」そして今回の議題は「傍観者の正しい対応とは」でした。6限後、全クラス一斉に行われましたが、身近なテーマでもあり、いつも以上に活発な話し合いの様子が見られました。まさに「^{ひとごと}他人事」ではなく「^{じぶんごと}自分事」として考えている雰囲気印象的でした。今回のディスカッションがどう生かされていくのか、今後の取り組みが楽しみになりました。

小中サミット委員の皆さん、ありがとうございます。

小松市新人体育大会開催



25日から小松市新人体育大会が開催されます。新チームとなりいよいよ最初の公式戦となります。当日の試合やレースでは普段の練習ができるもの。それはつまり練習した事以上はでないという事です。だからこそ、ピンチでも冷静に、ジタバタせず、慌てず、自分の力を出し切ることに集中してほしいです。22日には壮行会も行われます。ぜひ頑張ってきて下さい。

先週行われた後期生徒会役員立会演説会、印象的だったのは候補者が共通して言っていたあいさつ。あいさつは人が生きていく上で本当に大切なものですが、これは強制的にするものではなく、一人一人の自覚、意識が大切になります。以前出した学校だよりのあいさつに関するものを載せました。皆さんがあいさつについて考えるきっかけになれば嬉しいです。

挨拶はコミュニケーションの入り口

挨拶という漢字。「挨」の意味は聞く、近づき合う。「拶」は相手のいいものを引き出す、迫るという意味です。つまり挨拶は「自分の心を開き、相手に近づいて、相手の心に迫るもの」なんだそうです。コミュニケーションの入り口とも言えるあいさつ。「あの人の挨拶は気持ちいい」と言ってもらえる挨拶にするにはどうすればよいのでしょうか。

レベル1 「人に会った時、ちゃんと顔を見ることができる」

アイコンタクトは大事。気づかないふりをするのはダメですね。

レベル2 「相手を認識できたら会釈えしゃくができる」

声を出すまでいかなくても、笑顔で会釈できると相手は気持ちいいものです。

レベル3 「あいさつされたら返すことができる」

声をかけられて無視する人はまずいとは思いますが、できれば会釈だけで済ませず、マスク越しでも声を出して返しましょう。

レベル4 「自分から先にあいさつする」

あいさつは先制攻撃です。少なくとも先にあいさつすると自分自身が気持ちいいものです。

レベル5 「相手に聞こえるようにきちんとあいさつできる」

「ちわっ」「ま～す」のように語尾しか聞こえないのは、たとえ元気でも、いいあいさつとは言えない。ましてや相手が目上の人だと結構失礼だったり…。

レベル6 「明るく元気よい声で、笑顔であいさつできる」

あいさつは相手を認識していますという信号でもあります。ぜひプラスのエネルギーを添えて相手に届けたいものです。

レベル7 「相手を選ばず誰にでも公平にあいさつできる」

目上の人か、後輩か、自分に近い人かそうでないか、好きか嫌いかなど考えずに自然に声が出せると言うことです。

最後に…これはレベルが高い

レベル8 「あいさつを一言で済ませず、二言目を添えることができる」

決まり文句の「おはよう」「こんにちは」は出てきてもそれに続く言葉はなかなか難しい。「最近どう」「元気?!」「風邪なおった?」などその人に合わせた言葉が加えられたら素敵ですね。



